

俳諧

杉亭備忘集

文政庚辰孟春盡日



杉亭公がしつとら主頼中門の他諸公
好んて易法者揮し書も常の目し夜
お飽るるか或は終所お地従し又在
新古の佛書は舞以様もありて公道
もまてし書もさし好む事も治めく解
論抄りし者も形務とまされし二涯も信
用し様もましく世後り行所は支庫
の所なりも是より二年一四十年有八歳元
氣皇朝の事なりゆりありまるとる故
も備忘録に編しとる

ひさしきし掃帚の一助とあり
あしあか子侍とせられ沙行 敵と侍
まよなるこれ見ゆま侍のあま
の掃帚の介し まよ新の御解と侍
まよの吐選とるありし

文政庚辰正月

連俳紀元

阿奈仁恵也亦恵也守万思松登女亦何
比勢

いふにまやあまやうもあ松登女亦何
比勢

二神之神神祇より始るとあり

又曰日本武尊甲州酒折ノ社ニテ

化爲伊弉津久津の遠可爲天伊久夜加
祓津留

時ニ御火焼云童

加、系、遣、天、夜、仁、波、古、古、乃、夜、日、仁、波、
冬、多、嘉、加、を

二神、神、祇、八、歌、連、佛、ノ、結、元、ナリ、日、本、
ノ、福、ヲ、以、テ、結、テ、連、句、ノ、結、ト、セ、シ、モ、可、ナラ、
シ、カ

佛、諸、天、滿、宮、ヲ、用、ル、夏

應、各、年、中、北、野、天、神、老、人、ト、化、シ、テ、二、系、良、
基、云、ノ、御、籍、考、シ、テ、連、歌、出、衆、主、水、外、水、
ノ、書、ヲ、乞、梵、灯、尊、主、カ、ツ、テ、お、フ、ト、云、シ、但、梵、
灯、尊、主、ニ、未、社、煙、ノ、宮、ノ、化、身、ト、故、ニ、連、佛、
ノ、考、シ、テ、ト、ス

連、佛、宗、道、應、各、年、中、二、系、良、基、云、石、の、寺、
寺、考、の、首、免、許、連、歌、下、侍、云

史、連、綿、貞、徳

正、風、上、周、南、台、南、詩、經、國、風、是、正、風、也

正、の、性、情、ノ、正、シ、布、正、ノ、心、ヨリ、マ、ラ、ハ、ル、テ、愛、風、
ト、云、正、風、上、の、人、情、正、シ、テ、奉、心、ニ、叶、ノ、真、如、実、相、
身、ノ、義、シ、是、ヲ、照、ス、云、佛、ト、云

祖、前、の、季、時、ノ、心、ヨリ、出、テ、諸、流、ニ、ワ、タ、リ、正、風、
眼、ヲ、ヒ、ラ、キ、於、ニ、萬、世、ノ、師、ト、ナ、リ、云、フ

正、保、元、年、誕、生、父、の、松、尾、子、在、焉、
四、十、一、歳、古、也、ノ、時、ヲ、リ

雅名松尾重作兄ヲ松尾重左元文三年、号基ヲ
伏子流又系子出方宗之属ト云延宝二年、地守此州
宗因月、伏子系ト居シ泊船堂十七寺忠公ハ
伏子主人蟬吟子ニシテ伏子寺東部、出杉川カ方
ニ寓ス、川蘿坊桃青、深川ノ旧草ニテ基シ蕉菴
ト云

元禄七年終焉、辛酉歳十月十二日

佛書の書中、丁の裏より初め是則ち

二条家法法よれん

巻目としの巻目、巻頭より初め是なるなり

百韻といふ百句ともいふなり、百韻字韻

といふ四十七字皆韻といふなり

百韻四折、表八句裏十四、表七句目月十三花

五三折、表十四句裏十四、九月十三花

名残折、表十四句裏八、七句目花

四折、四花七月

七十二候、七十二氣候ヲカタトル、百韻三折ヲ除ク

三折、三花五月

源氏行表六句 廿四句 東十五句 七句 題

一 表十二句 二 東十二句 七句

三 表十二句 二 東六句 五句

四十句 百句 半略し 月四句 二

四 四 百句 二 折ヲ除ク 月三句 二

歌仙行表六句 月三句 二 七句 二 月十三句

一 月三句 二

法橋常願三十六句 歌仙ノ名ヲ下ニシク言入テ 連歌ノ折トス

ホウ人丸 濠川の...

大番

口 英之...

下略

大番の歌...

長歌...

一 月十六句...

二 折 二句 三月

短歌...

一 表八句...

二 折 二句 二月

首尾略...

合せ...

于句

三物 三モ先ハ歳旦ノ事ニ若シ賤ヲトシ
三モモニ賤シテ清浄ヲトシ三ハ大飛ニシテ
陽シ依テヲノカテ祈禱シモツシ
歳旦ノ言也九節ノ一祀ヤリヨク多クシ者ニ
季古働者ニシ候ハ只ニ白ヨ白韻ナクテ
阿ガ敷シ歳旦ノ言ハ六六日ノ言ヨクテ
阿ガ敷シ

三六日の外ハ多ク六歳旦ノ言ハ只ニ白ヨ白韻ナクテ
阿ガ敷シ歳旦ノ言ハ六六日ノ言ヨクテ
阿ガ敷シ

三六日の外ハ多ク六歳旦ノ言ハ只ニ白ヨ白韻ナクテ
阿ガ敷シ歳旦ノ言ハ六六日ノ言ヨクテ
阿ガ敷シ

三六日の外ハ多ク六歳旦ノ言ハ只ニ白ヨ白韻ナクテ
阿ガ敷シ歳旦ノ言ハ六六日ノ言ヨクテ
阿ガ敷シ

賜ふては行はし 物や象の和衣は福祿をさし
又供ふ物 功夫の行し ことごとく せしむるさ 抱いたる
此男よ入る 幸業の味 味察し せん

服 左の袖よか 川 志

ぬ中 六人のし ころり

ころ せね ころり ぬ ぬ

き 二月の 國の 主 輪 並か ころ

何 ころり ころり 白の 襟の ころり

芋 枝の 南 廻り ぬ 形 月

衣 衣 八白 ころり ぬ ぬ 白 鞠 影 ねり ころり
や ころり ころり ころり ころり ころり 成 輪 ころり
飛 ころり ころり 地 名 ころり ころり ころり 折 ころり
句 浦 花 の 形 ころり ころり

表 衣 神 祇 釋 教 意 無 為 述 懐 回 懐 古 人
此 名 古 人 の 名 也 其 人 形 ころり ころり 昔 古 光
廿 今 白 娘

此 外 諸 事 徒 然 無 名 の 煙 霧 先 旅 柳 ころり ころり
旅 事 諸 事 紙 衣 東 旅

是 衣 述 懐 白 衣 無 為 ころり ころり ころり ころり
之 衣 推 ころり ころり

此青相通ハカシ後後ニ燒角漏腐
例煙煙是亦禁烟也ニ年等の川たぐさかぶの川
高倉と志じ一表ニ雨房等の名ありはる
火防し新造ニ荒池校キ火の地古キ創字
但貴人老人カ人カハ心句云出きは向又水を
あく元氣ニ更カ有ニ報多ク者々々
数句筆句は流る字重々元服元白級
尤ホし此外も禁忌の詞よく考く句
一
快之る道福も追々位牌多キ新造
此等言く勝りまは三方見也獄カ多流連

好くはる

同字来リ秋の字務田の河は外も云後河の
一上包二投大カ水流^カ而懐カの名感の
後カに之舉句ハ社書カカめてくす
脇のナカ法しハ六轉は初後対格大
九轉ニテカミ置 韻字名前古歌ニ出カ
附ハ遠附カニ義ハ某ハ数句カ意カ
定ハ数句の意カ定カ是ニ後ニ三大事ハ
一石の内カ初字カカ言ニカ知カカ
二数句疑カハ脇カ疑カ一カ数句流連カ
解カ流連カ一又傳カ数句の文字カカ
数句カ流連カカカカカカカカカカ

道を云ふは服も切らぬ等白くも扱物ら何れも
服も云ふ但し差うと思ふ服表 都く数白の素情
に勝り有りは

和歌ハ幸未河の歌子敵切字ありとも考がけ
奇し連字則切字切字字あり切字も
ハ此云おし十八の切字ししめハかかモハ
ケリヤゾナリ下知ワセレジニカヨ
ナシヤタリセ^現ナツ^年又スイカニ
ナレヤメヤ 初チ切字ハ是ハ陽也かほらえん
古法と云ふんこめをり
数白切字切字入る向文高く自同自著

道くをくは年句は限せらるため之數白といふ
んハ何れ切字ありなり

欲得賢とハ欲得がハ^{れいし}依令ハ物とし
す折上ハ^いかか^り論ふ^くお^し折^り也

賢ハモカハ^ハ唐律^也也、^ハ欲得^{より}を^まさ
の^をし

とみ字ハ五義ハ止秋の終りといふなり
よ^ハ社^ハ月^ハと^ハ此^ハなり^ハ兼^ハち^ハし^ハる^ハ葉^ハの
和^ハ美^ハし^ハぬ^ハと^ハ申^ハる^ハ雖^ハ心^ハは^ハり^ハ日^ハと^ハは^ハふ
い^ハし^ハの^ハ略^ハと^ハし^ハ終^ハど^ハし^ハ止^ハり^ハ物^ハの^ハ身^ハ
こ^ハより^ハ物^ハは^ハ勝^ハ者^ハぬ^ハと^ハし^ハし^ハと^ハし^ハ兼

文字ハ物神意のこころを記すに先づ
てすまふくわん字ハ如くわん如のこころ
義マアモト訓ハ

三哉といひて神てさすの世とこれハ
胎ハ是胎生とありてさす此のこころ
胎ハ胎生とありて哉とありて胎生
胎生とありて胎生とありて胎生
胎生とありて胎生とありて胎生
胎生とありて胎生とありて胎生
胎生とありて胎生とありて胎生
胎生とありて胎生とありて胎生
胎生とありて胎生とありて胎生

別ハ是況とありて同ハ是現とありて
是ハ胎生とありて胎生とありて胎生

や哉ハ 神佛年月日人名國郡名
二季言傳やハ神也やハ胎生也やハ名
也也哉ハ数也やハ年や月や元也
いふと果も子信也時也也也也也也
かかも也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也
佛年月日也也也也也也也也也也也
りももももももももももももももも

あまのついでに既して匠切の物に云はれし
句法若くは影影互顯

萬子也くわふ匠と雖は六月月根

此の事跡出十日迄は十一日あるは十二日迄は
十三日迄は十四日迄は十五日迄は

新と略すとの業ありてし九日と京沙新と略

五と略すとの業ありてし九日と京沙新と略

京と九日と略すとの業ありてし

郭と正月と梅と花と咲たり

郭と正月と梅と花と咲たり

花とるし梅と咲りて二句共同法別なり

模寫變態

三井寺の門橋より見ゆる月

僧敵月下川のりてこれ此の白石の門敵

のりてありき然然と愛しく三井寺の

作りのありかき愛しく佐のきい前佐

和のま井寺の變態なり其の曾島の作りの

然の台の鳥の宿池中樹傍敵月下川に茶

台のりて三井寺の變態なり其の曾島の

模寫變態

錯綜轉句

夕立や田舎の鳥の宿池中樹傍敵月下川に茶

あつたふちをこし是は諸藩へカキテ雷ハ夕立
とよむ移別しはけし神あり夕立をこし是の時
是れ大早しこしこしもかこなるはけし夕立を
こし友諸藩へとよむ移別しもあつた是ハ
とよむし

換骨

尤此は風もあつたし夕立も
夕立も風のけしこし夕立のけし夕立
あつたはけし夕立もあつたはけし夕立
とよむし

あつたはけし夕立もあつたはけし夕立

換骨の未だかひのあつたはけし夕立
とよむし夕立もあつたはけし夕立
あつたはけし夕立もあつたはけし夕立
とよむし

大掛 此は原文

換骨の未だかひのあつたはけし夕立
とよむし夕立もあつたはけし夕立
あつたはけし夕立もあつたはけし夕立
とよむし

ど物よ又交季のく感て然季のく季
季のくく季のくく感て然季のく季
ては後へ分れにる同季の感のく場と
初く感のくく感のくく感のく
す感のくく感のくく感のく
感のくく感のくく感のく

季のくく季のくく感のくく感のく
同月のくく感のくく感のく
二月のくく感のくく感のく
たのくく感のくく感のく
必くく感のくく感のく

同月のくく感のくく感のく
たのくく感のくく感のく
よのくく感のくく感のく
序のくく感のくく感のく

季のくく季のくく感のくく感のく
にのくく感のくく感のく
句のくく感のくく感のく
句のくく感のくく感のく
定のくく感のくく感のく
よのくく感のくく感のく

しんぼり

花の月を六(世)のたふり年(一)しんぼりのまよ

